



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-82

(2024.10.23)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 井上 有弘

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (24)
2024 年度上期の預金動向

— 8 年近く続いた定期性預金の減少は転換点に —

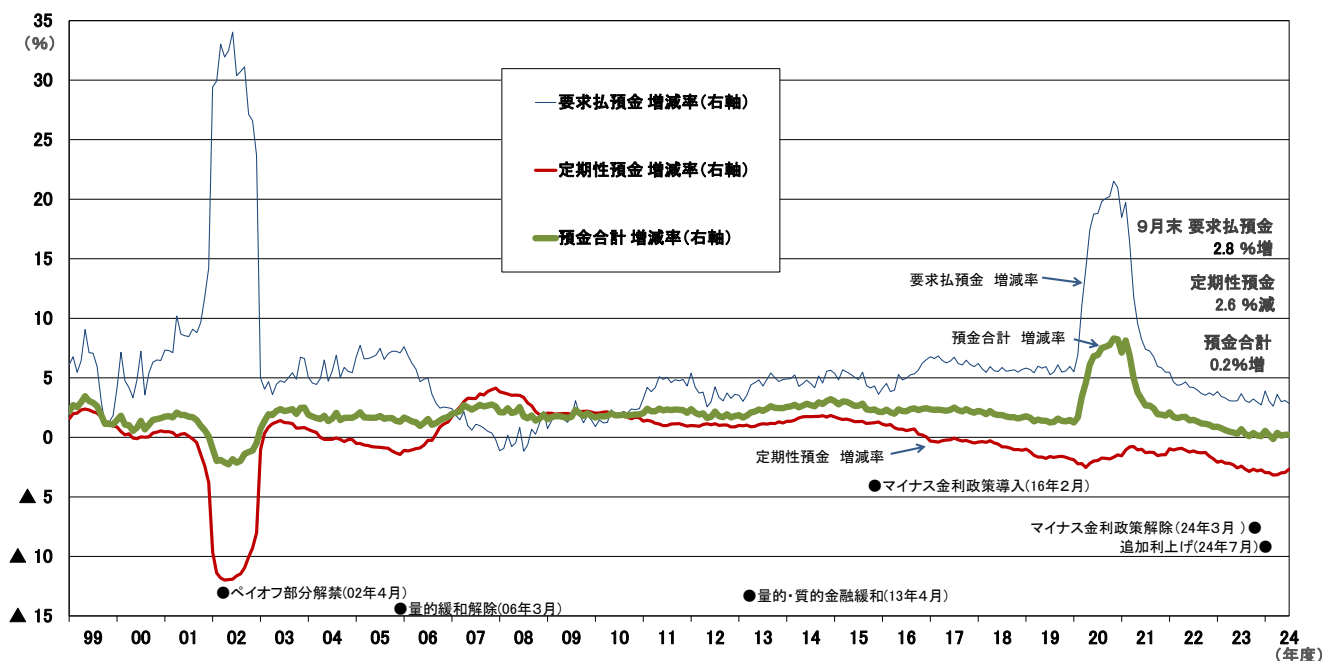
ポイント

- 2024 年 9 月末の信用金庫の預金残高の合計は、163.6 兆円、前年同月比増減率は 0.2% 増となった。7 月の追加利上げに伴って、定期性預金の減少は転換点を迎えている。
- 預金金利について、普通預金および定期預金の金利動向を確認すると、期間の長い定期預金から上昇し、24 年 7 月の追加利上げ後は、普通預金金利が 0.1% 程度となっている。今後の利上げペースによっては、定期性預金が増加に転じる可能性がある。

1. 2024 年度上期の預金動向

2024 年度上期の信用金庫の預金動向を確認する(図表 1)。24 年 9 月末の全国 254 金庫の預金残高の合計は、163.6 兆円、前年同月比増減率は 0.2% 増となった。24 年 5 月末には同 0.1% 減と一時減少したが、その後はわずかながら増加を維持している。信用金庫の預金増加率の低さの主因は、長期化した低金利環境を背景に 17 年 3 月から定期性預金¹が減少し続けていることにあったが、24 年 7 月の追加利上げに伴って転換点を迎えている。

(図表 1) 信用金庫の預金動向(前年同月末比増減率)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

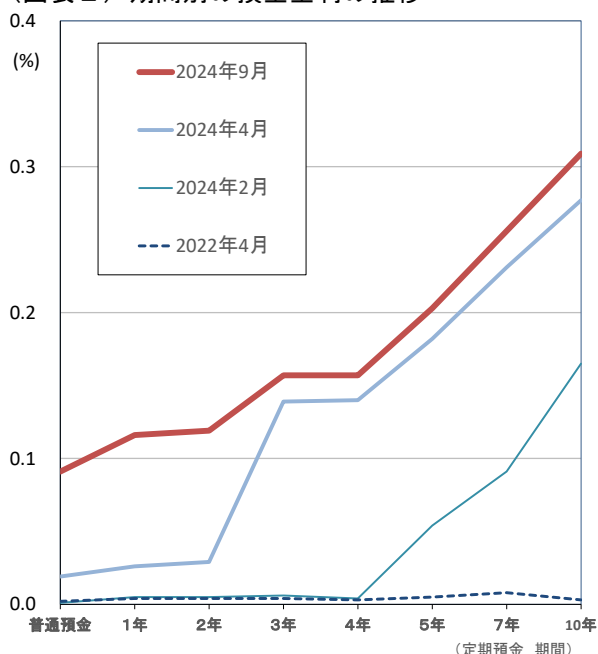
¹ 定期性預金の動向については、ニュース&トピックス No. 2024-77「データで読み解くこれからの信用金庫経営 (20) 定期性預金」(<https://www.scbrj.jp/reports/newstoppers/20240913-20.html>) を参照

2. 預金金利の推移

預金金利について、日本銀行の「預金種類別店頭表示金利」データにより、普通預金および期間別の定期預金金利の動向を確認する(図表2)。22年4月時点では、長期の定期預金も含めて預金金利はほぼ0%だった。その後、22年12月に日銀が長期金利の変動許容幅を拡大(0.25%から0.5%)すると、マイナス金利政策解除(24年3月)直前の24年2月には、期間5年以上の定期預金で金利が付くようになった。マイナス金利政策解除後(24年4月)は、普通預金金利が0.02%程度となった。さらに、7月の追加利上げにより預金金利は一段と上昇し、直近の9月には普通預金が0.1%程度となっている。

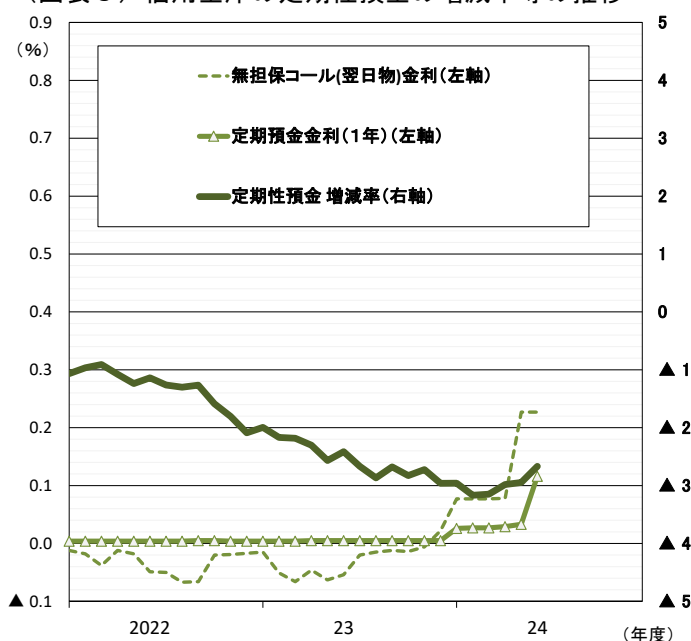
信用金庫の定期性預金の残高の推移をみても、24年5、6月には前年同月末比で3%超の減少となっていたが、追加利上げのあった7月以降は減少幅の縮小が続き、9月には同2.6%減となっている(図表3)。前回の金利上昇局面では、06年7月のゼロ金利政策解除からほぼ1年後には、信用金庫の定期性預金は同3%程度まで増加率を高めている。8年近く減少が続いてきた定期性預金の残高動向は転換点を迎えており、今後の利上げペースによっては定期性預金が増加に転じる可能性がある。

(図表2) 期間別の預金金利の推移



(備考) 日本銀行の「預金種類別店頭表示金利」より、
信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 信用金庫の定期性預金の増減率等の推移



(備考) 日本銀行の「預金種類別店頭表示金利」等より、
信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以 上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。